

平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業および研究協議の要旨

市町村名 高槻市
実践研究校名 高槻市立五領小学校
高槻市立上牧小学校

【公開授業】公開日：平成 25 年 11 月 22 日

対象学年：小学校5・6年生

(教材・教科書名) Hi, friends! 1 & 2 (単元名) (小5) Lesson7 What's this? ～クイズ大会をしよう～ (小6) Lesson5 Let's go to Italy. ～紹介しよう! 五領のいいところ～	(本時の指導の目標) (小5) 自分たちで考えたクイズを他の友だちに伝えるように発表したり、友だちの発表を反応しながら聞いて答えたりする。 (小6) 思いがはっきりと伝わるようにおすすめの五領地域の場所を紹介する。
--	---

(本時の授業において工夫した点)

(小5)

- ・ 作成したクイズを出したり、答えたりしながら、友だちと積極的にコミュニケーションを取ろうとする。」を最終ゴール(タスク)として設定した。
- ・ 自分たちで考えたクイズを他の友だちに伝えるように発表したり、友だちの発表を真剣に聞いて答えたりすることで、相手意識をもったコミュニケーション活動を行えるようにした。

(小6)

- ・ 「おすすめの五領地域の場所を紹介する」ことを最終ゴール(タスク)として設定した。
- ・ 自分の思いが相手に伝わるように相手の様子を見ながら話したり、相手の話を理解しながら聞くことを大切にした。

(授業を終えた教員の感想)

(小5)

- ・ 「話す」・「聞く」を大切にしている。友だちが言ったことに対して反応することも大事にしているが、今回の授業でも意識して進めた。
- ・ 学級担任(HRT)とALTの役割を決めている。HRTは、授業をマネジメントする役割に徹していて、うまく役割分担をすることができた。

(小6)

- ・ 単元で「五領地域」を選んだ理由として、子どもの実態から、これまでに学んだ地域のことについて、英語を使ってお互いに伝え合うことができればいいなと考えたからである。
- ・ 身近な題材なので、子どもたちは難しい単語も「言ってみよう」と意欲的に練習し、自分たちの発表に生かしていた。

【研究協議会】

(テーマ) 研究協議「子どもたちは『本時の目標』に迫ることができたのか」 指導助言「コミュニケーション能力を育てるには？」	(指導・助言者) 高槻市教育センター 指導主事 高谷 陽子
---	-------------------------------------

(研究協議で出された意見)

(共通)

- ・ 両校とも「本時の目標（めあて）」に迫ることができた。
- ・ 活動している時の子どもたちの表情は、いきいきとしていた。
- ・ 英語を使おうという雰囲気があった。

(小5)

- ・ 意欲的にクイズに取り組んでいた。
- ・ クイズがよく練られていて、大人も思わず考えてしまうクイズだった。
- ・ 本時の授業で大事な点（工夫しながら伝える、反応しながら聞く）を児童から出てきたのでよかった。また、それらを意識しながら活動に取り組んでいた。
- ・ 前半と後半との間に「活動の中間ふり返し」があったため、後半グループの発表は、とても良くなった。

(小6)

- ・ 子どもたちの活動へのモチベーションが高かった。
- ・ 自分たちが住んでいる地域について、他の友だちにどのように伝えたらいいのかを考えながら発表していた。
- ・ 発表では、児童が何度も練習した成果が見られ、だんだんとうまく言えるようになっていたのが印象的だった。
- ・ 発表では、難しい英語表現が多かったので、それを暗記するのに精一杯だった。もう少し日本語を交ぜながら発表させてもよかった。

(まとめ)

1. グローバル社会で求められる外国語能力とは、臆せずコミュニケーションを取ろうとする態度と外国語をツールとして円滑にコミュニケーションできる能力である。小学校では、前者の力をつける必要がある。英語を使って、相手に「伝えたい」・「わかってもらいたい」・「聞きたい」・「分かってほしい」という気持ちを育てていくことが大事である。
2. 週1回の外国語活動だけではコミュニケーション能力は育たない。他教科においても、その態度を育てていき、外国語活動でもそれを活かしていく。
3. 小学校では、コミュニケーション能力の素地を育てている。小学校でも中学校でも地域や家庭においても、「コミュニケーション能力を育む」という視点で子どもを育てていくことが大切である。